



「乙訓むこうまち歴史散歩Ⅲ」が開催されました

●日時・集合場所

平成29年12月9日（土）午後1時～4時30分 阪急西向日駅西口集合

●コース

阪急西向日駅西口→^{ながおかきゅうちょうどういんにしだいよんどうあと}長岡宮朝堂院西第四堂跡→^{せきとうじ}石塔寺→（西国街道）→^{いつつじじょうやとう}五辻常夜灯→
^{みなみしんきょうじ}南真経寺→^{だいくでん}長岡宮大極殿・^{しょうあんてんあと}小安殿跡→^{こうりゅうじあと}興隆寺跡→^{むこうじんじや}北大極殿公園→^{もといなりこふん}向日神社→元稻荷古墳
→向日市文化資料館→^{つきさかこうじょうやとう}道標・築榊講常夜燈→阪急東向日駅→^{こうみょうじ}光明寺道石標→JR向日町駅
（解散）

第3回となる今回の歴史散歩は、第1回目の「大枝・大原野を歩く」、第2回目の「桂川沿いの乙訓を歩く」に続き、「古代の街道と向日町界隈の遺跡・寺社を訪ねて」というテーマのもと、「歴史街道推進協議会2017魅力再発見 西国街道リレーウォーク」のひとつとして開催されました。

コースのご案内は向日市文化資料館長が行い、思わず「そうだったのか」とつぶやきなくなるような数々のガイド情報の話があったので、いくつかご紹介します。

- 長岡宮朝堂院西第四堂跡…長岡京時代、都の中心があった場所で、今の国会議事堂にあたる。都の中心地は北西に高く南東に向かって階段状に低くなる地形の上に位置しており、朝堂院はその中に平坦地を見つけて建てられていた。
- 南真経寺・興隆寺跡…南真経寺は日蓮宗を信仰する鶏冠井集落の村民のために、興隆寺の境内を借りる形で建てられたお寺。興隆寺は豊臣秀吉の庇護を受け江戸時代には広い境内に大伽藍を持つ大きな寺院であったが、1875年に廃寺となり、現在は土堀の跡や古い墓地が残る。
- 向日神社…718年の創建と伝えられており、平成30（2018）年に遷座1300年を迎える。本殿の建築様式は「^{さんげんしゃながれづくり}三間社流造」といい、国の重要文化財となっている。現在本殿は幣殿・^{へいでん}拜殿と一体となった^{はいでん}覆屋の中にあるため、実は外からは見えない。また、現在本殿は参道と向き合うように東を正面として建っているが、もともとは南を正面として建っていたことが江戸時代のガイドブックに描かれた絵図などで確認できる。
- 元稻荷古墳…3世紀後半に築造された前方後方墳。1960年に発掘調査が行われ、後方部から^{たてあなしきせきしつ}竪穴式石室が発見された。石室の天井石として使われた石は11枚あり、そのうちのひとつは現在文化資料館に展示されている。

